

# ミステリ読書案内

2024. 1. 3 発行元

第541号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 泡坂妻夫「ベスト表」(再掲)

探偵小説専門誌『幻影城』出身の作家。私が日本ミステリベスト3に推す『乱れからくり』の作者・泡坂妻夫の『ベスト表』を再度取り上げてみることにする。奇術を中心にした独特の世界観を作り上げた人。

### 色とどいの作品群

以前の『代表作』の号では『乱れからくり』、『11枚のとらんぷ』、『亜愛一郎の狼狽』を取り上げた。泡坂妻夫の作品はどれをとっても面白い。もちろん初期の諸作が目を引き、中期、後期になっても新た

な趣向が盛り込まれていて、作者の幅広い才能を感じることができる。中には少し手に入りにくい本も出始めているようだが、若い人にも是非読んでもらいたい。他の作家の近年のベストテン作品・傑作に決して見劣りすることのない新鮮さが伝わってくるはずである。

### 「湖底のまつり」

1978年幻影城ノベルス。探偵小説専門誌『幻影城』に連載された後単行本になった。実のところこの時期、『幻影城』は経営が苦しくなっており、雑誌が続くのか続かないのかハラハラさせられる段階に入ってきていた。私の手元にある幻影城ノベルスもかろうじで発刊ギリギリに間に合った形。幻影城ノベルスに入っている泡坂妻夫作品は『11枚のとらんぷ』『乱れからくり』『亜愛一郎の狼狽』と本書の4冊。雑誌『幻影城』が廃刊になってから泡坂妻夫の作品がもう出ないのではないかと心配されたが、次作の『花嫁のさけび』が講談社から出てホッとしたのを覚えている。

本書は『幻影城』路線の日本探偵小説の流れに沿った作品と言える。横溝とは言わないけれども…。主人公は香島紀子。傷心の若い彼女は気を紛らわすために旅に出た。獅々吼峡に足を踏み入れたところで急な増水に巻き込まれ、溺れる寸前に。そこを助け上げてくれたのが埴田晃二。埴田は次の日の朝に姿を消した。彼を探しに村祭りの「おまけさん祭」に行ってみると、埴田は既に夏のうちに毒殺されていたと話を聞く…。

### 「天井のとらんぷ 曾我佳城全集・上」

1983年講談社ノベルス。『小説現代』に連載されたものを集めた短編集。その後、続編の『花火と銃声』が1992年に出て、2000年に新作を加えた形で大冊一巻本『奇術探偵 曾我佳城全集』になった。この年の『このミステリーがすごい!』ランキングの第一位に。現在一番手に入りやすい創元推理文庫版では『奇術探偵 曾我佳城全集・上下2巻』になっている。名探偵・曾我佳城は若くして引退した女性の奇術師。普段は静かな言動なのだが、奇妙な事件に遭遇するととたんに切れ味鋭い推理を展開する。特に奇術絡みの発想で思いがけない結論に導く。

第一話『天井のとらんぷ』。大学で、そして高校で教室や通路などの天井にトランプカードが貼り付けられる出来事が続く。何枚も…。いたずらのように見えるのだが、手の届かない天井にどうやって貼り付けるのか…。この手法はすぐに明かされるのだが、続いて起きた殺人事件現場の天井にも貼り付けてあるとなると…。曾我佳城はこの場面に登場してきて、被害者がその瞬間に考えた思いを分析する。

### 《泡坂妻夫作品のベスト表》

1. 乱れからくり
2. 11枚のとらんぷ
3. 湖底のまつり
4. 喜劇悲喜劇
5. 亜愛一の狼狽 (短)
6. 亜愛一郎の転倒 (短)
7. 亜愛一郎の逃亡 (短)
8. しあわせの書
9. 煙の殺意 (短)
10. 花嫁のさけび
11. 妖女のねむり
12. ヨギ・ガンジーの妖術 (短)
13. 花嫁は二度眠る
14. 天井のとらんぷ (短)
15. 死者の輪舞
16. 毒薬の輪舞
17. 迷蝶の島
18. 妖盗S79号 (短)
19. 猫女
20. 奇跡の男 (短)
21. ダイヤル7をまわす時 (短)
22. 斜光
23. びいどろの筆 (短)
24. 秘文字 (短)
25. 鬼女の鱗 (短)
26. 花火と銃声 (短)
27. 蔭桔梗 (短)
28. 黒き舞臺
29. ゆきなだれ (短)
30. 写楽百面相
31. 亜智一郎の恐慌 (短)
32. 比翼 (短)
33. 夢の密室 (短)
34. 蚊取湖殺人事件 (短)
35. 雨女 (短)
36. 砂時計 (短)
37. 折鶴 (短)
38. 恋路吟行 (短)
39. 砂のアラベスク (短)
40. 揚羽蝶 (短)

『曾我佳城全集』は、この場合は『天井のとらんぷ』と『花火と銃声』に分かれた形。読んだ時の本の題名で挙げた。短編は、さまざまな形で編集しなおされ、未収録作品を加えた形で、別題名の本になっているものもある。